

令和6年11月吉日 所長 海老澤政昭

ごうでいんぐには、職員用に貸し出し可能な図書があります。その中の定期的に購入している図書として「みんなのねがい」と「障害者問題研究」があります。前者は比較的容易に読むことができますので、文献学習の入門版として活用しています。その「みんなのねがい」11月号より抜粋した内容を紹介いたします。

現在、ごうでいんぐでの職員の定年は65歳と設定しています。“知的障害者の場合は45歳ごろが退職期にあたる”そうです。“通常の人と比べて余暇活動や家事労働の少なさが指摘され、そこから余暇活動は働き続けるためにも必要とされています。”ことに加え、“仕事への意欲の欠如、仕事をどのように自覚し、意味づけているか、どう生きようとしているかの希薄さ”も理由として挙げています。さらに、糸賀一雄と田中昌人らの実態調査から「外見上、現象的には安定しているに見える人たちも、内面的に見れば自覚的な生活意欲を抱いているのは4割で、まだ積極的な意欲を持つに至っていない者が半数以上いた。」ことより、外面的適応だけでなく内面的適応の重要性を指摘しています。現在の就労支援に欠けている部分ではないかと思えます。

併せて、以前紹介した白石恵理子氏の文章も再度引用させていただきます。

『(前略) 障害種別や程度にあわせて作業所や施設の機能分化が進むことは、実践の焦点を当てやすくなるという意義がありますが、逆に狭い枠組みに実践を閉じ込めてしまわないかという点検が必要になっていると思います。障害の軽い人を、狭い「就労」の枠に追い込んで余暇をますます貧困にしたり、障害の重い人を「労働」から切り離したり、主体性を奪ったりしないように、そしてそのことにすら気づかなくなってしまうないように、障害の種別や程度を超えて、それぞれが互いに学びあうつながりや共同が今まで以上に大切になっているのではないのでしょうか。』

肝に銘じながら実践に取り組んでいます。

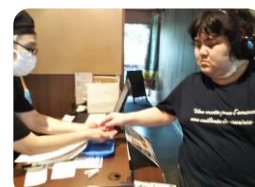
個別面談、ご協力ありがとうございました。

## 芋ほりをしました！

今年の春に植えていたさつまいもを収穫しました。仲間たちが力を合わせてつるを引っ張ったり、掘りました。体力のいる作業でしたが、土の中からさつまいもが出てくると仲間たちはニコニコして収穫しました。



## 今月の活動報告



放課後等ディサービスではハロウィンに向けて帽子を作りました。個性豊かな帽子が勢ぞろいしました。

生活介護ではカフェでランチ体験をしました。仲間たちは楽しそうでした。

就労継続支援B型ではメダカの観察を行いました。気候に合わせて水の温度や草の様子などメダカ 환경을整えました。